

平成26年度 日本水環境学会東北支部セミナー 実施報告

～「水辺のすこやかさ指標」による水環境の多様な評価～

現在、市民による水環境保全の取り組みが多く地域で行われています。水環境学会では環境省から委託を受け、水環境を総合的に評価するための指標「水環境健全性指標」の検討を行ってきました。環境省はこの成果を受け平成21年度に「水辺のすこやかさ指標」をHPに公表し、現在本指標の普及を推進しているところです。本セミナーでは「水辺のすこやかさ指標」をめぐる最近の動向と東北地域での取り組み事例を紹介した。本セミナーは日本水環境学会東北支部と東北支部水環境総合性指標研究会との合同開催であった。

主催 (公社) 日本水環境学会東北支部

後援 環境省・東北地方環境事務所

日時 2014年12月10日(水)13:30～17:00

場所 宮城野区文化センター・シアターホール

参加者数：70名

1. セミナー概要

《第1部》では「水辺のすこやかさ指標をめぐる最近の動向」をテーマに3題が発表された。

・環境省水大気局水環境課の岡島 一徳氏より『水辺のすこやかさ指標をめぐる環境省の取組み』題して環境省が「水辺のすこやかさ指標」作成するに至った経緯を述べた後、今後の水環境保全の在り方について現在環境省内で議論されている内容について紹介があった。

・日本水環境学会副学会長・前水環境の総合性指標研究委員会・委員長の古米弘明氏の『学会における水辺のすこやかさ指標の深化と不朽の取組み』では日本水環境学会が平成16年度に環境省から「水環境健全性指標」の検討を請負業務として始めてから数年の検討と施行を受けて、最終的に平成21年度に「水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）」の取りまとめに至った学会内の経緯を述べた。水環境の健全性とは何かそしてその健全性を評価する「水辺のすこやかさ指標」について分かりやすく述べた。

・(株)共立理化学研究所の石井 誠治氏より『国内各地での水辺のすこやかさ指標等の様々な取組み』と題して水環境健全性指標



写真1 講演中の岡島氏



写真2 講演中の古米氏



写真3 講演中の石井氏

(みずしるべ)の実践事例を全国自治体・環境研究所等のWebsiteでの公開内容や水環境学会でまとめた成果集からこれまでの知見を元に事例全体を概説し、個別事例の詳細と最新動向を述べそしてこれらの取組みの特徴を整理して、全国の事例を紹介した。

《第2部》では「東北地域のいくつかの実践事例の紹介」として5件の報告があった。

・青森大学・角田均氏の『青森県・尾駁沼にける小中学校生による水辺のすこやかさ指標調べ』では小学生による水辺のすこやかさ指標調査の結果をインターネット対応の環境学習用マップアプリを用いた報告であった。この手法ではマップアプリ上でのデータ、地理情報の可視化と毎年のデータの蓄積により水環境学習の深化が図られ、「水辺のすこやかさ指標」が水環境の評価に有効であることが示された。



写真4 講演中の角田氏



写真5 講演中の佐藤氏

・山形県環境科学研究センター・佐藤勉氏は『清流指標「水辺の診断書」による河川環境の評価』と題して報告した。これは山形県版水環境健全性指標と言うべきものであり、山形県を代表する最上川を対象に「美しい山形・最上川フォーラム」が平成14年度から山形県が全県的に実施している「身近な川健康診断」による環境調査の概要説明と結果についての報告であった。調査結果

を地図上に落とすことにより河川の上流と下流、本川と支川の関係が把握できるようになり河川の現状把握が容易になったことが述べられた。

・宮城大学・原田茂樹氏の『宮城大学食産学部での「水辺のすこやかさ指標」を用いた水辺評価の試み』では大学の講義・実験実習の一環として本指標をため池用に一部改変して調査を実施した。時間変化に伴う景観の変化ならびに水質の変化について考察した。



写真6 講演中の原田氏



写真7 講演中の矢野氏

・東北工業大学・矢野篤男氏による『梅田川における「水辺のすこやかさ指標」を用いた調査』は仙台の環境団体を対象として指標の指導者研修会で実施した調査の報告であった。指導者研修会では本指標は今後、梅田川のさらなる環境改善へ向けた取り組みのツールとなることが指摘された。

・宮城県工業高校・3年生課題研究グループによる『宮城県工業高校の生徒による「すこやかさ指標」による広瀬川調査』では同校の生徒たちが本指標を用いた広瀬川の霊屋橋付近の過去2年の調



写真8 講演中の宮城県工業高校の皆さん

査結果について報告し、合流式下水道の吐き口を衛生的な視点から課題として指摘した。

・ 宮城県工業高校・平吹孝氏の『すこやかさ指標の工業高校における環境教育ツールとしての評価』では工業高校の課題授業として指標を取り上げ、本指標の環境教育における有効性について報告した。多くの視点から川を評価することで、生徒自身が、これまで見えなかった新しい川の姿を発見でき、水環境健全性指標は環境学習のツールとして有効に活用できるものであったと述べた。



写真9 講演中の平吹氏

以上